

SPIT 'EM OUT! "it's absolutely raw"

The more you spit the less they hear... the more you hear the more they spit...

feature interview

DJ WATARAI

DJ WATARAI 約一年ぶりとなる巻頭インタビューへの登場。
クラブDJとして、そしてプロデューサーとして、今のDJ WATARAIの素直な心境をHARLEM
への思い入れも含め、語ってもらった。

■クラブDJと制作のそれぞれにおいて意識してることや、重なる部分について。まずはクラブDJの事から。

あまり意識してることはないかな。基本的にHIP HOPのクラブってすごいディスコ的な部分が多いから、HIP HOPのパフォーマンス的な所とか、そういう部分も考えつつ、DJとしてやっぱりショーケース的な部分もないと自分でやって面白くないから、その辺が半分半分ぐらいあればいいなってもう10年ぐらい前から思ってやって来てて、そういう気持ちは今も全然変わらないですね。ただ、お客さんはどんどん変わってくるし、アメリカで流行ってるメインストリームなものもどんどん変わって来るし、ショーケース的な部分ももちろん変わって来ちゃうし。まあ、オールドスクールとかミドルスクールとか、ああいういつになっても変わらないものもあるけど、やっぱり新しい曲でもそういうショーケース的な事をやらなきゃいけないし、そういうのを混ぜながらフロアも盛り上げなきゃいけないっていうので、昔からやり続けられてる良い部分も残しながら、今のフロアに対応出来るプレイが出来れば最高なっていうのはすごい心掛けてやってるんですけど。

■お客さんありきだし、なかなか100%自分の思う様にはならないという事ですか？

1年に1、2回そういうプレイが出来ればいいかな。『今日は完璧だったな』みたいな、フロアもガッチリ盛り上げてたし、ショーケース的な部分もちゃんとあって、自分なりにそういう良いプレイが出来たっていうのは1年に1回か2回しかないかもしれない。それぐらい難しい。

■NO DOUBTに月1回ゲストで参加する時は、他のDJとのバランスなどで意識している事はありますか？

土曜に限って言うと、第1土曜日に移ってからまだ3回しかやってないから、自分がどういう風にTAIKI君とHAZIMEの間にいれたいのかっていうのは、いまいっつも悩んでいるところがあるんですけど。3回やってみて思ったのは、TAIKI君もHAZIMEも割とお互いのバランスの取り方がすごい慣れてるから、そんなに気にしなくて良いのかなとは思いました。ただ、HAZIMEはレゲエからダンクラからオールドスクールからなんでも幅広くかけるし、今あいうプレイって聴いていてすごい新鮮なので、すごく感化されますね。俺もああいう風にまたやりたいな、みたいな。やっぱり5年、10年前は、そんなにドカンってフロアが爆発してる様なクラブってあんまりなかったし。普通に、HIP HOPがダラダラかかって、DJが好きになんかやってたんだけど。そういう時間がダラダラ流れつつ、お客さんも好きな時に踊ってるみたいな時代とはもう違うでしょ、よりディスコ的になってきて。そう言う意味で今はプレイの体系がすごい変わってきていたんだけど、HAZIMEもTAIKI君も昔からの良い部分をそうやってちゃんと引っ張ってやっていて、そういう部分にとっても感化されます。俺もまたそういうのやってみたくて最近土曜日は思うようになってきたので、その辺でまたHAZIMEと、TAIKI君も含めてお互いに刺激し合えれば一番最高だし、お客さんも多分見てて楽しいだろうな。どうしても間に入っちゃうと、うまく間に入ろうとか、うまくまとめちゃうって感じが出ちゃうから、それが3回やってみて、逆にマイナスだなんてすごく感じたので、ちょっと色々考えてやりたいなって思ってます。

■ずっとクラブシーンにいるDJとして、『今こうあるべきじゃないの』とか『こういう風にしたいな』とか、特に最近感じる事はありますか？

そうだね、さっきも言ったけど、お客さんも変わって、音楽も変わってきて、よりディスコ的な感じになって来た様な気はしてたんだけど、でもDJのスタイルは皆それぞれ持っていて、HIP HOPに大事なものの、HIP HOPのDJに求められるものっていうのは、実は昔からあまり変わってない様な気も最近できて。だからここ4、5年は、そういう時代の流れについて行こうって自分なりに思ってやってきたけど、なんかここにきてそれが逆に、自分自身のDJ自体もつまんなくしてる様な感じがして。だから今はこ

ういう状況だけど、やっぱり自分のやってきてるものは変えないでやってかなきゃダメだなって最近凄く思いました。お客さんが古い曲を知らなくても、古い曲もちゃんと今かけても魅力的に聴こえるようにプレイしないと、絶対ダメだと思うし。そういう意味ではね、10年前と同じではダメにして、昔から自分で良いなと思っててことは、やっぱり素直に自分が楽しくやれないと、いくらヒット曲並べたところで、それは逆にマイナスになるなという、最近そう思いますね。

■ヒット曲だけのプレイでは、DJ WATARAIじゃなくても良いのでは、という事にもなりかねないですよね？

そうなんですよね。最近若い子のDJとか聴いてると、曲もすごいよく知っているし、ミックスも上手いし、曲の並べ方も結構上手い。でもそういうのを合わせてやっていると、ホントに俺じゃなくても良いよね、誰がやっても同じじゃん、みたいな。それじゃ俺が呼ばれてやる意味がないっていうか。そういうのもあるかもしれない。でもHARLEMでやってるDJの人達、火曜のKOYA君、KANGO君もそうだし、KEN-BO君もそうだし、TAIKI君もHAZIMEもMURO君もそうだけど、やっぱりそれなりに貫いてやってる部分ってそれぞれちゃんと持っていて、それぞれ全然若い子に真似出来ない持ち味を持ってやってて、俺だけね、そういうのやってなかったなって最近すごいそう思ってますよね。逆にそういう自分達が持っている持ち味みたいなのが、すごくマイナスなイメージを持ってた時期もあって、実は。その時はディスコ的になってきたので、逆にその持ち味みたいなものをガンガン出すと、今の時代とはちょっとずれちゃうんじゃないかっていうのを思ってた時期もあったんだけど、やっぱりそれなりに皆が10年以上やってきた積み重ねのスタイルってすごい大事で、最近の色んなDJの人とか、改めて冷静に聴いてみると、あー大事だなってすごく思う。俺もちゃんとそういうのやらないとダメだなって。その自分が今までずっとやってきた事と、最近のそういう部分を合わせた集大成的なものをやれたら最高ですよね。要はやって自分が楽しくなきゃ意味がないっていうか、自分が本当にこれが良いと思って、やれないと意味ないじゃないですか。完璧フロアだけに中心を合わせてやってきた事と、最近のそういう部分を合わせた集大成的なものをやれたら最高ですよね。要はやって自分が楽しくなきゃ意味がないっていうか、自分が本当にこれが良いと思って、やれないと意味ないじゃないですか。完璧フロアだけに中心を合わせてやってきた事と、最近のそういう部分を合わせた集大成的なものをやれたら最高ですよね。要はやって自分が楽しくなきゃ意味がないっていうか、自分が本当にこれが良いと思って、やれないと意味ないじゃないですか。

■いつからそうなったと思いますか？

いつからと言うよりは、そういう時代だったんだよね。ここに来てまたちょっと見直し良い時期かなって思います。ビルボードヒット並べりゃいいじゃん、みたいなのは、それだったら別に俺じゃなくてもいいし、それこそ中学生でもできるDJプレイだと思うんですけど。スクラッチが出来るとかいうのは、そういう問題じゃなくて。やっぱり新譜・旧譜問わず、自分なりにやってきて、これは自分で格好良いとか、良いなって思ってるものを続けてやっていかないとダメだなって思うんですけど。今日この頃は。

■次に制作について。制作に関しては、クラブDJと交わる部分なども多いと思いますか？

やっぱりDJが作るサウンドっていうのは絶対大事で、海外にもDJで曲を作ってる人が沢山いるし、そういう人達の曲を聴いてもやっぱりすごいクラブユースで、すごいダンスミュージック色が強い。自分も例えば家で聴いている曲と、クラブでかける曲は、同じ曲でも全然聴こえ方が違うんですよね。クラブでかけるとすごい派手で踊りやすい曲でも、それで家で聴いててもわからない。実際DJプレイをやっている『あ、この曲ってすごくフロア受けするし、ダンスミュージックとしてすごく良い音楽だよな』っていうのを感じて作る曲って多いんですよね。そういう意味では常に現場と制作は割とリンクしてる部分が多くて。でもやっぱり家で曲を作ってる分、切り離されちゃう部分もあるから、現場でかかるとか全然無視して、『これは単純に良い曲なんじゃないか』って作ることもあるけど。でも気が付くとフロア寄りな方にどうしても傾いていっちゃうっていう



のは確かにあるんですけど。制作に関しては、音楽として良いっていう事とクラブでかかるダンスミュージックとしてすごくクオリティが高いということ、そのバランスがとれているものが一番良いなと思ってやってるんですけど。やっぱり現場でやってるとどうしても、そっち寄りなものが多くは多いですね。

■ある意味そういう部分を求められているんですよね？

そうですね。現場をやっている以上はそういうものを作りたくなって思う。もちろんHIP HOPを作っているんだけど、HIP HOPであると同時にダンスミュージックじゃなきゃダメっていうのが、昔から俺の中であって。逆に現場やってくるから出来るみたいなものもありますよね。やっぱり自分のにはクラブでかかっている音楽が好きなんです。クラブの大きいスピーカーで大音量で流れてるHIP HOPとかR&Bが好きだから、自分の作るものもそうじゃないと、作ってつまらないってことなんですけど。そういう部分もあって、なんかどうしてかそっち寄りなものを。現場を離れたら変わって来ちゃうのかもしれないけど。今は週に最低でも2回はDJをしてるから、DJが終わって帰って来て、『昨日かけたあの曲すごい良かったな』とか思って、それを考えながら作ったりすると、それがすごく良くて。音響的にどうとかっていう専門的な事を追求するよりは、クラブでかかるとか絶対良いなみたいな。そういうのを想定して作るうとしちゃう事の方が多い。

■クラブDJと制作をリンクさせつつ、そのバランスの取り方はどうなんでしょうか？

あんまりね、バランスとか考えたことはないんですけど。制作ってやっぱりアーティストあってのものだし、自分でやりたいって思ったからって、パッと出来るもんじゃないから。でも、DJをしながら『こういうのが今すごくいいよ』っていうのを自分の制作を通して紹介出来るというバランスが一番良いなと思って。今の人なんかは洋楽をよく聴いてるからあんまりそういうのは必要ないのかもしれないけど、日本語のHIP HOPとかR&Bをよく聴く若い子とか、クラブとかあまり来ない子が、俺の聴いた曲を聴いて興味を持ってきて、そこが入り口になつてクラブに遊びに来て、自分のプレイを聴いてくれたりとか。その逆でもいいんだけど、そういうのが自分的にはベストなバランスです。自分の中での重心はやっぱりDJにあって、制作は制作でDJだけじゃ出来ないことをやってるだけの事だから。

■WATARAIさんから客観的に見たHARLEMというクラブは？

全体的なHIP HOPの云々っていうのはよくわからないけど、クラブシーンっていうものだけに絞って言えば、やっぱりHIP HOPの日本の代表的なクラブって絶対HARLEMだよ。それは7年前から変わってない。もちろんかかる曲とか来るお客さんは全然

違うけれども、HARLEM自体の性格みたいなものは全く変わってないと思います。やっぱりHIP HOPのクラブの中心は、HARLEMだ。みんなが必ず1回は行きたいと思うHIP HOPのクラブって、そんなにないでしょ、日本全国でも。

まあ地方にはその土地だけのものがあるかも知れないけど。東京に関して言ったら、全然HIP HOPのクラブに遊びに行きたいとか、全然クラブに行きたくない人がどこに最初行きたいかって言ったらHARLEMだっていう人はすごく多いと思う。それだけ中心的な、ずっと一番つべんに居るといえるのはすごいと思います。

これだけ良いDJが揃ってるっていうのもあんまりないし、レギュラーもとてもしっかりしてる。

HARLEMが他のクラブと違うのは、誰もがイベント出来たり、誰もが簡単にDJ出来る場所じゃないから。それってすごく大事なことだと思って。そんなに簡単にDJをやりたい人間がHARLEMのDJブースにあがってDJが出来ような場所じゃないし。それなりに選ばれた人がやってくるクラブだから。そういう意味ではね、絶対に必要な部分を貫いてるクラブって他にあまりないんじゃないかな。

■ver.3.0のfeat. AI/HI-Dの楽曲について。

やったことなかったから、すごい楽しかった。R&Bのオリジナルってそんなにやってくるわけじゃないし、こういう機会がHARLEMのコンピってことで制約もないし、自由にやりたいこともあって。トラックも、最近自分が気に入ってかけてるようなR&Bみたいなものをすごく意識して作ったトラックで、AIちゃんとHI-Dさんがやってくれてっていうのはすごい新鮮で面白かった。やって良かったなって。

こういう感じのコラボレーションってあんまりなかなか、こういうことでもない出来ないけど、そういう意味ではすごい意義のある仕事でしたね。

■今後の予定は？

今後はプレイに関しても制作に関しても、自分の色をいっぱい出して、面白いことをいっぱいやります。『WORK IT』もやります。

■最後に、読んでいる人にメッセージを。

HARLEMはHIP HOPの中心にあるクラブだし、いい加減DJは1人も居ないですよ。選ばれた人、選ばれたDJだけがやってくるから。HIP HOPのクラブが好きで行く人は、レギュラーイベント(火・金・土)は、全部の曜日に足を運んで欲しいですね。それぞれの曜日のDJを聴くことで、知らなかった発見が絶対いっぱいあるから。

■できれば土曜日は第1ですか？

はい。素晴らしいDJ達のプレイを聴いて欲しいと思います。☺